



◀明治44(1911)年本格操業に入った王子製紙苫小牧工場

# 苫小牧再発見!!

Rediscovering TOMAKOMAI

第22回

## 工業のまち苫小牧の出発点

現在の苫小牧市は多くの企業が進出し、工業のまちとして発展を続けていますが、工業都市としての始まりはいつかご存じでしょうか。

苫小牧における工業開発は、明治43(1910)年の王子製紙苫小牧工場の操業開始から始まりました。明治37(1904)年に王子製紙は支笏水系とその付近の原料であるエゾ松、トド松に着目し、この地域に新工場を建設することになりました。

当初は千歳が工場建設予定地でしたが、その後の調査と送電技術の新開発により、苫小牧が太平洋岸に面し、北海道炭鉄道の便もあること。工場用地が安価、工業用水も豊富であることなどにより、苫小牧への工場建設が決定になりました。

一時は千歳に工場が建つものと考えられていた住民も苫小牧決定に大喜びし、村民有地の無償譲渡と工場建設使役人1千人を申し出るほどの盛り上がりとなりました。

当時の苫小牧は漁業、林業などを中心とする1次産業のまちでしたが、これにより2次産業のまちへと変貌し、一大変革となりました。そして、このことで勇払原野に工業開発の拠点が生まれ、多くの人々が集まり、当時はさびしい漁村であった苫小牧村は工業都市として出発することになりました。

この王子製紙苫小牧工場の進出をきっかけとして、現在の苫小牧市はさまざまな製品の工場が進出し、全国的にも有数の工業のまちとなっています。本年9月には王子製紙苫小牧工場が操業100周年を迎えるとともに、苫小牧市も寒村から脱却し、「工業のまち」という新しい歴史が始まって100周年を迎えるといえるでしょう。

現在の王子製紙苫小牧工場の様子▶



市民訪問団参加者を募集します!

# ネーピア市姉妹都市締結30周年

苫小牧市とネーピア市の姉妹都市締結30周年を記念し、詳細 市民自治推進課 ☎32-6156  
市民訪問団を結成してネーピア市を訪問します!



## ● 姉妹都市締結へのあゆみ

ネーピア市との交流のきっかけは、1971年に王子製紙(株)と山陽国策パルプ(現日本製紙(株))がオークランドの木材会社との共同出資会社として、現在のパンパック社をネーピア市に設立したことに始まります。1973年にはここで生産されたパルプを苫小牧に輸出するため、両港間にパルプ定期船が就航しました。これをきっかけに港を含めた交流へと発展し、1978年に姉妹港になりました。同年に苫小牧とネーピアの青年会議所の国際姉妹JC締結や、翌年の苫小牧ニュージーランド協会設立などにより、姉妹都市締結への気運が高まり、1980年4月に苫小牧市とネーピア市間に姉妹都市締結がされました。その後は5年ごとに訪問団の相互交流を行っているとともに、文化交流やスポーツ交流など市民同士の草の根交流が続いています。



ネーピア市国際港

## ● ネーピア市の概要

ネーピア市はニュージーランド北島の東海岸沿いにあり、首都ウエリントンから300kmほどに位置しています。人口は約57,000人で先住民のマオリ族が約16%を占めています。気候は地中海性気候で最高気温が25℃、夏は長く、冬は短くとも過ごしやすいまちです。また、木材、羊毛、食料品などの積み出し港として有名です。



マーケットストリート

ネーピア市の街並みはアールデコ様式の建築物であふれ、広い通りや公園があり独特の美しさがあります。これは1931年にこの地域一帯に大地震が発生し、まちが壊滅的な打撃を受けたあと再建されたもので、その当時流行のアールデコ様式が取り入れられたことによるものです。

アールデコ様式とは1910年代から1930年代までにフランスを中心に流行した美術工芸の様式。単純、直線的なデザインが特徴です。



アールデコ建築

# まちなか再生総合プロジェクト! CAP

Central Tomakomai Active Project 詳細 まちづくり推進課 ☎32-6054

市では2月に「まちなか再生総合プロジェクト素案(CAP:キャップ)」を発表しました! このプロジェクトの概要についてシリーズでお知らせします!

## 第3回 CAPの事業について(Part1)

**まちこ** ねえ博士! 前は「まちなかのこれまで」という話だったけど、これから実際に「まちなか再生」のためにCAPではどんな取り組みをするのかしら?

**博士** 1つ目はみんなが暮らしやすいまちなかを目指すため、まちなかに住む人を増やすんだ。そのためお年寄りや子育て世帯に役立つ住宅づくりや市営住宅のまちなか移転などを検討しているんだ。

**まちこ** なるほど~! 暮らしやすくなったり、住宅ができたりすると住む人は増えるわね。

**博士** 2つ目は利用しやすい公共交通を目指すんだ。まちなかは公共交通の結節点にもなっていて、その機能を活かしてまちなかへの接続が良くなるように見直し作業を進めて行くんだよ。

**まちこ** 車に頼らずに生活できるとお年寄りも安心ね。でも、それだけでは「まちなか再生」にはつながらないと思うわ。

**博士** そうだね。CAPの事業は暮らしやすい住環境づくりだけではないのだよ。ほかにもまちなかのにぎわいの創出に向けた取り組みがあるんだ。

**まちこ** 以前のまちなかは商業の中心地としてにぎわっていたんですね。まちなかを暮らしやすくするとともに、にぎわいを取り戻さなきゃ!

**博士** そう! CAPではみんなが暮らしやすくして活気あふれるまちなかを目指して事業を展開して「まちなか再生」をするんだ! じゃあ次回にはにぎわいの創出についての話をしようね。

**まちこ** にぎわいの創出のためにはどんな事業が行われるか楽しみだわ!

今回はCAPのにぎわい創出事業についてです!



## 市民訪問団参加者募集!!

今回は30周年の記念すべき訪問です! ぜひご参加ください!

平成22年 11月10日(水)~16日(火) 7日間

ネーピア市以外にもロトルアやワイトモなどニュージーランド北島の観光地を巡ります

**内容** 姉妹都市30周年確認書の締結、市民交流パーティ、日本文化の紹介や市民交流会などを通じ、ネーピア市民と交流を深めます。

ネーピア市内の観光は、アールデコ様式の街並みの見学のほか、博物館や水族館なども見学予定です。

14日のネーピア市出発以降はニュージーランド南島の観光コースのオプションも用意しています。詳細は案内チラシをご覧ください



ヨットハーバー

**費用** 1人=265,000円(ツイン2人1部屋、燃油サーチャージを含む)  
原油高騰に伴い燃油サーチャージに変更があれば、追加料金が生じる場合があります

**申し込み** (株)日本旅行北海道苫小牧支店(表町1丁目)に申込書と申込金5万円を添えて提出してください

ホームステイを希望する方は記載してください

**申込書配布場所** 市役所1階案内、勇払・のぞみ出張所、各コミセン、植苗ファミリーセンター、市民活動センター、アイビー・プラザ、中央図書館、(株)日本旅行北海道苫小牧支店(表町1丁目)

**締め切り** 8月31日(火)  
後日、今後のスケジュールを通知します



ネーピア市の風景



ネーピア市の風景